平成24年11月20日　　第 23 号

市川を調べる

編集　市川を調べる会（会長:星　一郎/事務局:木村隆一）
発行　八戸市立市川公民館（館長：氣田（けた）　武男）

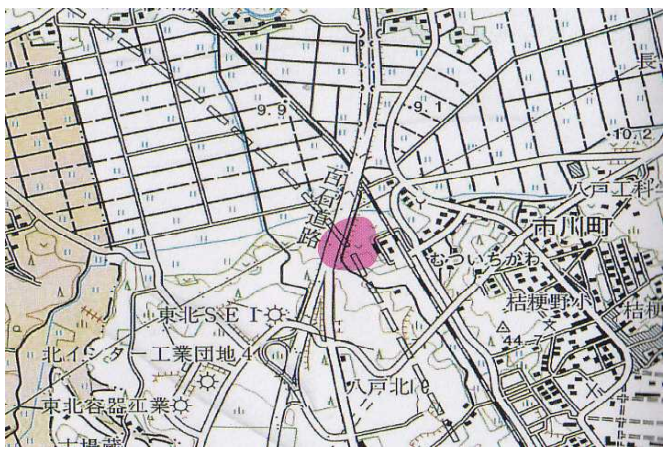
【お知らせ】　広報紙**「市川を調べる」の各号がインターネットに掲載**されています。
※**「市川を調べる会」**に**アクセス。**（または、**八戸市立市川中学校**）

和野前山遺跡（1）縄文時代

轟木下　木村　隆一

【1】初めに　市川地域では**国の史跡に指定**されている**長七谷地貝塚**が有名であるが、その他の遺跡として10数箇所が専門家によって確認されている。今回はその中の一つである**和野前山遺跡（1）縄文時代**と、**和野前山遺跡（2）古代**（次号）について記す。

【2】遺跡の位置　東北本線陸奥市川駅から西に約500メートルの距離にあって、五戸川の右岸から市川低地帯に舌状に突き出た台地上に位置する。標高は15～20メートルである。（右の地図）



〈遺跡の位置〉

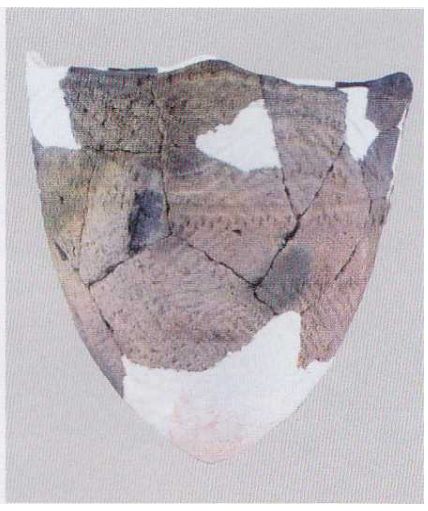
【3】遺跡の様子　昭和56年、国道45号線八戸北バイパス工事に先立ち、青森県教育委員会により発掘調査が実施された。その結果、縄文時代早期後葉から末葉（約7500～6000年前）の竪穴住居跡5棟・土杭（どこう）17基・焼土3基が検出された。最も出土量の多いのは早稲田5類土器（下欄写真左）である。注目されるものとして、魚の椎骨（ついこつ）（脊椎を構成する骨）を器の面に回転させた土器である。2点出土しているが、1点はニシンの骨が使用された可能性が指摘されている。また、土器片錘（へんすい）（下欄写真右参照）も数多く出土している。

石器は、石鏃（せきぞく）（狩猟に用いた石のやじり）・石槍（せきそう）（石のやり）・石匙（せきひ）（つまみ状の突起があって**さじ**に似ている打製石器）・石斧（せきふ）（石おの）等13種類が出土している。

建物は6箇所の集中区域があり、うち2箇所は捨て場、その他の2箇所は作業場、そして1箇所は調理場と関連した作業場と想定されている。また、住居周辺には多数の石器が残されており、炉も存在することから、広場としての性格も考えられている。（以下、次号に続く。）

※ 和野について ⇒かつて轟木小学校のある町内名は**和野**であったが、平成18年に隣の新田町内と合併して**新和町内**に変更された。現在は、町内名としてではなく住所名として**和野前山**のほかに、和野・和野前が存在している。

平底土器（早稲田5類）


尖底（せんてい）土器（早稲田6類）

片錘（へんすい）（魚をとる網のおもり）

〈 資　料 〉

「新編　八戸市史　考古資料編」

「県教委　和野前山遺跡」